

情報判定シート

情報判定シート

	題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
		①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
		○	○	○	○	○2	×	—
		○	○	○	○	○	△	ベリー類によるA型肝炎については欧州などを中心に海外では知られています。またノロウイルスの報告もあります。環境水からの汚染が考えられています。わが国に輸入されるベリー類にA型肝炎およびノロウイルス等の混入があるかどうか、感染者がいるかどうかをどうかを調査することが考えられます。さらに海外に行く方に、あるいは海外からの冷凍ベリー類や野菜についても消費者に生のベリー類による食中毒の事例があることを情報として提供することが望まれると思います。
		○	△	○	○	1	○	海外での発生状況や調査、食品当局の勧告は都民への情報提供としての役割は果たせると思うが、国内ではベリー類の輸入数量の推移という統計しかなく、全く手付かずの状態であり、どのように都民への注意喚起をすれば良いか、考えてしまう。
		○	△	○	○	○	○	ベリー類によるA型肝炎食中毒は、現時点では日本での発生はないとされるが、海外ではアウトブレイクが多発しており、対岸の火事として看過はできない。但し、海外のアウトブレイクでの感染経路は特定されておらず、また国内流通品の汚染実態の情報は皆無といえる。したがって、消費者への情報提供は、ベリー類の汚染実態の調査結果等を踏まえ、必要に応じて行うのが妥当であり、現時点では風評被害等の混乱を招く恐れがあると考え。一方、事業者に対しては、商品による食中毒事故は、甚大な企業ダメージをもたらすことを念頭に、適確な品質マネジメントを行えるよう、速やかに情報提供する必要があると考える。
		△	○	○	○	○	○	欧米諸国では、ウイルス汚染された生鮮野菜、魚介類及び果物類が原因と推定される食中毒や感染症事例が発生・報告されている。これらの食品類は、わが国にも輸入され食品媒介感染症の一つとしてA型肝炎ウイルスによる食中毒の発生につながる。予防策は、広く浸透しつつある「ノロウイルス対策」と共通する部分も多いことから、都民に情報提供することで、更なる食品衛生意識の向上に寄与できると考える。
1	ベリー類によるA型肝炎食中毒について							

情報判定シート

	題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
		①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
		○	○	○	○	○1	○	
		△	△	△	—	—	—	資料にあるようにサポウイルスの胃腸炎が増加しているようです。食中毒のみならず小児の散発例もそうです。ただ、サポウイルスだけでなくノロウイルスも同様なことですので、すでに取り組みは行われていると考えて良いのではないのでしょうか。そういった意味で△にしております。もちろん再度、ノロウイルスとともに啓発されることはありうると思います。
		△	○	△	○	2	○	ノロウイルスではない急性胃腸炎をおこすウイルスがあるという認識はあった方が良く、感染経路、症状、予防法がノロウイルスと同じであるという点では、都民の立場からは調べてた結果がどちらのウイルスであったか・・・という結果が違うだけであり、とるべき対処法は今までのノロウイルスに対することと全く同じなので、現時点での検討は緊急性を要するか・・・
		△	○	○	○	○	△	WHOはサポウイルス感染症は、食品媒介ウイルス感染症としての重要性は現時点では低いと評価している。また、ノロウイルスに対するのと同様の対策が予防・治療に奏功するとされる。したがって、緊急な情報提供は必ずしも必要ではない、という見方もできる。しかし、従来原因不明の食中毒・感染症とされてきたものかなりの部分は、サポウイルス感染症によるものであり、また近年その実増があるらしいので、適確に情報提供することが望ましい。同感染症の対策は明確であり、正しい情報を提供することで、都民の不安を徒に煽ることなく、危害の拡大防止に役立てることが可能であると考えます。
		△	○	△	○	○	○	サポウイルスは、わが国で発見された経緯もあって、ウイルス性下痢症が疑われる事例の診断項目にも採用されている。しかも、最近ではノロウイルスほどではないが、サポウイルスが原因となった急性胃腸炎も報告される頻度が増えている。予防法については、「ノロウイルス対策」がそのまま適用できることから、都民に速やかに情報提供することで、サポウイルス感染症の予防にもつながると考える。
2	サポウイルスによる急性胃腸炎の増加について							